

土・人・水

長野県大町市大町3887番地
大町市土地改良区
水土里ネットおおまち
地域用水対策協議会
TEL 0261(22)5542
FAX 0261(23)0766

全国絵画展で入賞の快挙

日本の農業は、人々が生きて行く為の食料をお米や野菜、果実等を作り出すだけでなく、きれいな水や緑に象徴される豊かな自然を守りながら動植物の生命をも育む環境の構築を目指してきました。農村の風景は徐々に変わってきました。農村の歴史を振り返る時大切な基本理念は受け継がれているかと思われまます。

この絵画展は日本の農業、農村風景を「米作り体験授業」を通して次世代を担う子どもたちに、見たまま感じたままを一枚の絵に表現してもらうために行われたもので、昨年2月、市内4小学校に募集したところ、大町北小学校5年生から72点の作品が寄せられ、水土里ネットおおまちを通して、全国水土里ネットが主催する子ども絵画展に応募しました。

全国の絵画展には8650点もの応募があり、厳正な審査が行われた結果、大町北小学校6年生 北澤祐人さん(当

時5年生)が見事入賞、ヤンマー賞を受賞しました。授賞式は昨年11月30日東京墨田区の会場で盛大に行われ、作品はその後東京の2会場で展示され多くの人に観てもらいました。

また同校の6年生山田大河さん(同5年生)が入選、同じく6年生峯村和希さん(同5年生)は地域団体賞(地域用水優秀賞)を受賞し、受賞の伝達式は去る1月28日大町市役所市長応接室において、当協議会長の牛越大町市長より本人に手渡されました。



表彰状授与

オオヤマザクラ 植樹15周年

第1回のふれあいイベント「土・人・水」は、平成12年度に県営事業によって、自然に配慮された工法で生まれ変わった越荒沢堰親水広場周辺で開催されました。

当時は越荒沢堰の水系に関係する20自治会の皆さんが中心となって地域用水対策協議会を組織し、企画していたイベントの中で「初回を記念して関係自治会の名盤を付けたオオヤマザクラを植樹してはどうか」との案が出され、関係機関と合わせた25本が水路沿いに植えられました。

関係自治会のみなさんが自分たちで植えた桜の木を自らの手で管理し、いつかその木の下でお花見ができるよう願って植えたものでした。

あれから15年、冬の厳しい風雪や夏の猛暑や干ばつに耐えて、数年前からようやく可憐な花を咲かせるようになってきました。

現在ではこの協議会も、大町市土地改良区の受益範囲である、平、大町、社全域の自治会の協力も得て、水土里ネットおおまち地域用水対策協議会が継承し、イベントも今年で15回目を迎えます。



そこで、15周年を記念して今年のイベントでは例年行われている広場の草刈など整備を行う中で、桜周辺に重点をおいた整備も検討したいと考えています。

なお、自然工法の石積み水路に橋が架かっており、水際の自然散策ができる広場を目指したいとも思いますが、年一度のイベントの中で下草刈りを行うだけでは限界があります。散策道に雑木の粉碎チップを敷き詰めることによって雑草を抑える方法なども試みましたが、イノシシの仕業とも思える大きな溝ができてボコボコ状態となるなど、良案を模索しています。

川ざらいを考える

平成26年度、国は新たに日本型直接支払制度に基づき、「農業の多面的機能の維持・発揮のための地域活動や営農活動に対して支援する」として事業展開がされています。

この制度では、従来「かんがい用水は農家が守るもの」という強い意識を支えられ、恒例行事として、無償で春と秋の二回、農家を中心となり川ざらいを行ってきましたが、今後は活動計画書を作成し、大町市と協定を結んだ活動組織に対しては、川ざらいや地域内の草刈作業といった活動に交付金が支払われるというものです。

国では、今後予想される高齢化等により、水路などの農業施設の保全に係わる担い手の負担が増えるのを抑制したり、国際競争に打ち勝つために更に農地集積などの規模拡大を後押しする狙いがあるものですが、これらの対象は基本的に農振農用地に限られ、大町市の中でも大町地域に広がる都市計画用途区域内の農用地は対象外です。

そしてその背景には、農業用水がかんがい用水だけではなく、地域用水(環境用水、生活用水、防火用水、消雪用水など)として多くの人々に恩恵を与えているはずなのに、依然として川ざらいなどに対する非農家の意識は薄



春の一斉清掃

く、現状は多くの地域で年二回行われる川ざらいも農家組合が中心となり、農家のみの出役によって、また更には、地域によっては出不足金を徴収してまでも守られている状況です。

今後は、農振地域内に於いても更に担い手に農地集積が進むことにより、農業への関心が薄れていく事が心配されるなか、地域用水を大切な地域の宝として後世に引き継ぐために、そしてこの網の目のように張り巡らせられた先人の努力の結晶である水路の水が滞らないように、農家のみならず、地域住民全員が参加した維持活動実施を模索する時期が来ていると感じています。

今後は機会ある毎に、このような提案を行政に対しても行う予定ですので、ご協力をお願いします。

総合学習 「米作りの体験授業」 から学び



毎年恒例になった大町西小学校五年生の米作り体験授業「田植え」が、晴天に恵まれた5月19日行われました。

昨年に引き続き、子供たちが植えやすいようにと田植え枠を使用し、碁盤の目の様に印をつけるため、先生方が朝から頑張ってくれました。

「真すぐに筋道をつけるのはむずかしな」なんて言いながらも童心にかえって子供たちより一足先に楽しんでいる様子でした。

チャイムが鳴り体験授業が始まると先生に引率され、元気に成長した苗のハウスの前に、これまた元気な子供たちが集まってきました。はじめに挨拶や説明をしていましたが、子供たちの目は早く田植えがしたい・そんな様子のワクワク感が私たちにも伝わってきました。

田植えが始まると十人十色！

説明どおりにもくもくと作業する子、その横でどこから始めようか悩む子、自分のことより友達に手取り足取り教える子、そしてカエルを見つけて喜ぶ子・・・見ていてとても心が和みました。

いつもあたり前のように流れている



地域用水・・・その大切さを知ってもらうためにお手伝いしている授業なのですが、この子供たちの笑顔を見ていると、地域の皆様とともに、しっかりと地域の財産である用水を守っていかなければいけないとあらためて教えられた気持ちになりました。

「農業用水」としてだけでなく、「防火用水」「洗い場」「親水施設」「消雪用水」などとしても利用され、生活に欠かせない多くの機能をもつ地域用水ですが、水路の草刈りやゴミ拾いなどの日常管理を自分たちの手で行うことにより、地域の人々が一体となって、未来を担う子供たちのためにも、先人の築いてきた地域用水を絶やすことなく残していきたいでしょう。

発送の転換 ―長吉堰開さくくのアイデア

用水路には、開さくされた経過や背景によって様々な名前が付けられています。例えば越荒沢堰は、鹿島川から自然に流出していた「荒沢」を小熊山の山麓を迂回させて木崎湖へ結んだことに由来しており、野口堰は、文字どおり野口村の灌がいを目的として整備されたことを意味しています。なかには屋号や個人の名前が付いているものもありますが、これは、その水路を開鑿した家や人物を示していると共に、周囲の人々が、開発者に敬意を表した結果と考えられます。

個人の名を付けた代表的な用水路に、長吉堰と弥五六堰があります。両水路ともに江戸時代の終わりころ整備されたと伝えられていますが、弥五六堰については、大原の南部から中原地域の開発を進めるために開かれたとみられるほか、詳細はわかりません。

長吉堰は、北原に住んでいた平林長吉という人が開いたと伝えられ、高根新田村の幹線水路である大蔵宮堰から分枝した北原堰を起点として、御所堰、飯綱宮堰、庚申堂堰、いものじ原堰と交差し、それぞれの用水路に水量を補給した後、若一王子神社の西裏で町川



高根神社横を下る長吉堰

(南荒沢堰)に合流しています。

平から大町地域の主要な用水路が、鹿島川の扇状地に沿って北西から南東に向かって流下し、多くの流末が大町市街地を経由して農具川に流入しているのに対し、長吉堰だけは、南西から北東に向かって扇状地をまるで「さかさま方向に」横断しており、堰土手が周辺の耕地よりかなり高い「天井川」となっているなど、その特異な構造が目されます。また、この水路の開さく

によって、並行して流れている水路間で流量の調整を可能とした点で、当時としては画期的な水路であったことが想像されます。

長吉堰の開さくについて、提灯の灯りを目印に等高線に沿って勾配を確認しながら水路を掘り下げ、あるいは構築したと伝えられていますが、江戸時代の終わりには、平板測量の基本は既に確立しており、実際には、ある程度の測量術を用いたと考えられます。しかし、長吉がどのようにしてその技術を学んだのか。また、上流と下流をはじめ既得権者の中で「水争い」が絶えなかった時代、どのようにして権利者間の調整を行い、土地の使用を認めさせたのかなど、おそらくは大変な苦労をしたことが想像されますが、工事の詳細を知る史料は確認されていません。

長吉が構想した並行する水路間の効率的な水利用は、昭和20年代になって昭和電工導水路が整備されたことで大きく前進し、水争いも大幅に減少しましたが、今はただ、ゆったり流れる長吉堰を眺めるとき、彼のアイデアと先見性に頭の下がる思いがします。

(文責 荒井今朝一)



ふれあいイベント『人・水』
案山子コンテスト
参加者と作品募集

恒例になった、ふれあいイベントは、今年で十五回目となりますが、昨年同様、越荒沢堰親水広場周辺の雑草取り、子どもを中心とした魚のつかみ取り、用水路への魚の放流などを行います。

また、当日は親水広場で「案山子コンテスト」を行います。出展作品を募集しますので、左記事務局までお問い合わせください。

なお、当日は昼食(おにぎり)とお茶を用意します。

◆主催 水土里ネットおおまち

◆日時 八月二十三日(土)
午前八時開会
正午終了予定

◆会場 平小熊原

越荒沢堰親水広場

水土里ネットおおまち

(大町市土地改良区)

TEL: 221-5542

E-mail midori-net.omachi@res.ocn.ne.jp
http://www.midori-net.omachi.jp/

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2013

大町西小学校5年生と大町北小学校4年生、それぞれが取り組んだ総合学習で、体験したことを力強いタッチで表現してくれました。用水の大切さをみんなが理解して、これからも大事に守って行く意識が生まれることを期待します。

寄せられた作品は水土里ネットおおまち地域用水対策協議会で審査を行い、協議会の席上で牛越会長より表彰状と記念品が贈呈されました。受賞作品は次のとおりです。(敬称略)

会長賞



「大変だったいねかり」

松村 泰成 (大町北小学校5年3組)

理事長賞



「大変だったいねかり」

成沢 唯 (大町北小学校5年1組)

地域用水賞

「楽しい高せ川」

西沢 琴未
(大町西小学校4年生)



「稲をひもで結ぶ私」

飯島 もも
(大町西小学校5年1組)



努力賞



「きねが重いおもちつき」
戸谷 美陽
(大町西小学校5年1組)



「いねをかっている自分」
櫻井 一樹
(大町北小学校5年1組)



「いねをかっているところ」
久保田 翔大
(大町北小学校5年2組)



「ザクザクとるといねかり」
松下 夕姫
(大町西小学校5年2組)



「小さな一つの命」
木村 彩月
(大町西小学校4年生)